

平成24年度科学研究費補助金実績報告書
(研究成果公開発表 (B))

平成24年12月28日

文 部 科 学 大 臣 殿

課題番号	2	4	5	6	0	0	3
------	---	---	---	---	---	---	---

主催団体 所在地	〒600-8107 京都市下京区五条通新町東入東鎌屋町167 ビューフォート五条烏丸3階		
主 催 団 体 名	公益社団法人 日本放射線技術学会	代表者職名 代表者氏名	代表理事 真田 茂 印

シンポジウム・ 学術講演会名	平成24年度市民公開シンポジウム「子宮頸部がんの予防から治療について」				
実施主体 (支部等)	公益社団法人 日本放射線技術学会 学術委員会	代表者職名 代表者氏名	学術委員長 石田 隆行		
開催日	平成24年12月8日(土)～平成24年12月8日(土) (1日間)				
会場名	メルパルク京都 開催地: 京都市				
参加者数 (※交付申請書に記載 した参加予定者数)	116人 (200人)※				
費目別收支決算表					
実支出額の 使用内訳	合計	会場借料	消耗品費	人件費・謝金	その他
	600,054円 (内利息 54円)	207,870円	1,752円	23,901円	366,531円
交付申請書 に記載した 補助金の 使用内訳	合計	会場借料	消耗品費	人件費・謝金	その他
	600,000円	180,000円	70,000円	70,000円	280,000円

シンポジウム・学術講演会の目的	<p>婦人科領域のがんで最も一般的な子宮がんは、子宮頸がんと子宮体がん(子宮内膜がん)がある。このうち子宮頸がんは、婦人科の診察や細胞や組織を採取することで早期発見・早期治療が可能であることから、検診は非常に有効な方法であり、進行がんを防ぎ死亡を減らす効果が証明されている。欧米において検診の受検率は高いのに対して、日本では過去1年以内に受けた女性は15%に満たない状況である。また、年齢別にみた子宮頸がんの罹患率は、20歳代から40歳前後まで増加した後横ばいになり、70歳代後半以降で再び増加する傾向がある。子宮頸がんの発生には、その多くの場合、ヒトパピローマウイルス(Human Papillomavirus:HPV)の感染が関連しているといわれており、最近では、一部のHPV感染を予防できるワクチンが利用可能となっている。本シンポジウムは、「子宮頸がん」という疾患に対して、現在の医療が予防・診断・治療においてどのような形で克服しようとしているのかについて一般市民に広報することで罹患率の抑制と早期発見・早期治療による治癒率の向上に貢献することを目的とする。近年の若年層の罹患率の急増を食い止めるには、子宮頸がん検診を積極的に受けることが必要であることを広報し、早期発見・早期治療を受けることで、治癒できる疾患であることや、予防のためのワクチンを利用できる環境になっている現状を紹介して周知したいと考えている。</p>
シンポジウム・学術講演会の概要	<p>公益社団法人 日本放射線技術学会は、診断領域から、診断後の放射線治療の分野までを網羅した学会であるため、本会の特徴を反映できるとともに、市民の理解が深まるこことを念頭においてシンポジウムの構成を考えた。</p> <p>基調講演では、子宮がんという疾患の概要について解説するとともに、子宮頸がんに対するワクチンを用いた予防医学的見地からの解説も加えて講演した。シンポジウムでは、一般市民が知っておくべき事柄について、それぞれのシンポジストが話題提供した。</p> <p>第1演者は、「細胞スクリーニング検査について」というテーマで、がん検診の実際と重要性について解説した。第2演者は、「MRIを中心とした画像診断技術の解説」というテーマで、多種多様な画像診断検査のなかで、婦人科疾患に非常に貢献しているMRI装置を用いた画像診断の実際を紹介しながら、婦人科領域の検査で得られる画像について解説した。第3演者は、「腔内照射法等による放射線治療技術の解説」というテーマで、子宮頸がんを含めて婦人科領域の放射線療法で比較的よく使われる腔内照射法の解説と、その他の放射線治療法を含めた技術的な説明を中心に行うことで、もし治療が必要になった場合にも安心して受けて頂けるために参考にしてもらいたいと考えた。第4演者は、「子宮頸がんに対する治療法の解説」というテーマで、外科手術から放射線療法、化学療法など、治療法全般について、病期分類との関係性を含めて解説した。このシンポジウムが子宮頸がん予防につながるワクチンの詳細情報を含めて、一般市民が本疾患に関心をもって理解を深める機会にできればと考えた。最後の総合質疑応答では、日頃の不安を少しでも解消できるように、また、本疾患の罹患率が低下するためのお手伝いにつながるよう、会場からの質問に答えた。</p> <p>司会：本郷 隆治（京都桂病院）、錦 成郎（天理よろづ相談所病院）</p> <p>1. 基調講演「子宮頸癌は予防できる」（60分） 大阪府立成人病センター 上浦 祥司</p> <p>2. シンポジウム</p> <p>1) 子宮頸部細胞診の実際（20分） 京都市立病院 三宅 秀一</p> <p>2) 女性骨盤領域におけるMRI 画像診断技術の解説（20分） 京都大学医学部附属病院 谷口 正洋</p> <p>3) 腔内照射法等による放射線治療技術の解説（20分） 大阪府立成人病センター 宮崎 正義</p> <p>4) 子宮頸癌に対する治療法～手術療法を中心に～（40分） 京都大学医学部附属病院 馬場 長</p> <p>3. 総合質疑・応答（20分）</p>

主催団体の事務連絡者	<p>〒600-8107 京都市下京区五条通新町東入東錫屋町167 ビューフォート五条烏丸3階 所属・職名 事務局 事務局長 TEL:075-354-8989 (内線なし) 氏名 宮高 瞳 FAX:075-352-2556 E-mail: master@jsrt.or.jp</p>
------------	---